

大友直人

創立50周年記念式典・祝祭管弦楽団公演
指揮者インタビュー



学長座談会

創立50周年記念事業にむけて





松村 公嗣まつむら・こうじ(本学学長)

1968年愛知県立芸術大学第3期生として入学。1972年美術学部日本画専攻卒業、1974年同大学院美術研究科修士課程を修了。専門は日本画。1983年より愛知県立芸術大学助手を経て、2000年より同教授を務める。2013年愛知県立芸術大学第9代学長に就任。

松村…先生も、変わり者はいっぱいありましたからね。学長からして個人的でしたよ。初代学長、上野直昭先生ね。講義棟に書いてある「直指天」を遺した先生。入学式で開口一番言われたのが「おめでとう。この大学は税金でできているんだ。税金で出来ている学校は、10年に一人の作家が出版、それで役目は果たされる。以上、頑張らなさい。」って(笑)要は、長く続けていくってのは大変なことですよってね。そういうことを言いたかったんじゃないかと思えますけど。

東…開口一番っていうのがまた印象に残りますね(笑)

松村…デザインの先生でもね、ちょっとスピードを出しすぎて、警察に声かけられちゃった先生がいたんですよ。

「スピードこんなに出てるんです」って計器見せられて、思わず言ったのが、「あれ俺が作った機械だ」って。佐藤…ハハ、プロダクトデザイナーだったんですね。

松村…そうそう、工業デザインをやってる先生でね。「これ、俺が作った機械だよ」って言い張ったんだって。ま、それとスピード違反は何も関係ないんだけど(笑)

鈴木…思わず言っちゃったんですね(笑)

松村…音楽の先生もね、随分昔の音楽の先生でバリトンの先生だったんですね。地声もよく響くじゃないですか。センター試験の試験監督の途中で、試験室内での教員同士の声が大きく本部に親御さんから苦情の電話が来ちゃったとか。

東…全く声を出さないわけにはいかないし…困っちゃいますね！(笑)

松村…なんかね、豪快な先生が多かったよ。こう、没頭型とか。まさに芸術大学らしい先生たちばかりだったよね。



松村…そうだよ、本当に。田舎にある大学っていう特徴を〇〇パーセント活かしてるよね。

変わり者!?な教員たち

教員と学生が一緒に なつて、盛り上げて きた50年。

東…なんだかおらかな時代だったんですね。

松村…僕らが入ったときは先輩がいなかったし、のんびりしていましたね。いわゆる「伝統」っていうのも無いし。餅つきもね、その頃考えて、べつたんこべつたんこって。

東…それが今も芸術祭に店を出す「ぼん」に引き継がれているんですね。

鈴木…ああ、なるほど。当時はどんな芸術祭だったんですか？

佐藤…そうですね、昔は、とにかく乗り込んでいって…

松村…飲んでいましたよね、3日間ずっと。5時頃、帳が降りて来た頃からね。大刻屋から始まって、店がずつと並んでるじゃない。

鈴木…「かんだ川」もありますしね。

佐藤…僕の学生時代は、芸術祭最終日、夜が近づいてくると、みんなを店をぶちこわして回っていました。閉店だから、「解体の手間省いてやるよ！」みたいなこと言っただけ、パーッと店をぶち壊して！

松村…学生と教員とが一体になる一瞬ですよ。

東…あ、それ先生方も一緒にやってたんですね？

松村…うん、一緒にやってたね(笑)

東…鈴木先生が赴任された頃は、今のよう感じでした？

鈴木…そうですね。今のよう…でも独特だと感じましたね。レトロというか…。独特な、昭和初期のような

創立50周年 記念事業にむけて 学長座談会

愛知県立芸術大学は、平成28年度、創立50周年を迎えます。本学3期生でもある松村学長と、若手教員お二人に本学の今昔や創立50周年事業への思いをお伺いしました。(聞き手：入試・広報課 東主事)

50年前の 愛知芸大って？

東…松村先生は、本学の3期生でいらつしやいますが、ほぼ一貫して本学と共に歩まれていますね。

松村…そうですね。僕の入学の頃におぎやあと生まれた赤ん坊がいたとしたら、もう50歳になつてますよ。

鈴木…僕、44年生まれです。

佐藤…僕は、43年です。

松村…えー。二人とも、僕が入ったときの生まれだ。入学の頃に生まれた子どもが、佐藤先生や鈴木先生…

東…そう考えると、本当に長いですね、50年って。佐藤先生も、25年近く本学に携わっていらつしやいますね。

佐藤…学部で4年、大学院で2年。会社に就職後、また大学に戻つて来たものですから。教員が、19年目かな。あわせると、だいたい25年ですね。人生の半分以上…愛知芸大で過ごしてるんですよ(笑)

松村…そんなこといつたら僕なんて、もう47年もここにいますよ。

東…本当に、長いですね！ところで、創立当時の大学はどの様な風景だったのでしょうか？

松村…学生時代ね、いまや影も形もないクラシックギター部の部長をやつていました。ほとんどが音楽の学生さんだったけどね。

佐藤…僕は22期生ですが、運動系は美術の子が所属している、というイメージでしたね。ぼくもラグビー部だったんですけど、やはり音楽の学生は、いなかったな。巨入つて来た子がいたのですが、怪我でもしたらね、つてことがあつて。

松村…そうそう、クラブ活動なんかは結構盛んで。ヨット部なんて長鶴池に浮かべるヨット買って主張したり、みんな元気だったよな。

鈴木…長鶴池って、あの、芸大坂をのぼってくる途中の池ですよな？

松村…そうそう。あの池、タニジがいるんだけど、まるまる太ったタニジを探つて、BBQして食べた事もしたし。

鈴木…ええー！それはなんというか…。この環境を、ものすごい楽しんでました。

松村…僕らが入ったときは先輩がいなかったし、のんびりしていましたね。いわゆる「伝統」っていうのも無いし。餅つきもね、その頃考えて、べつたんこべつたんこって。

東…それが今も芸術祭に店を出す「ぼん」に引き継がれているんですね。

鈴木…ああ、なるほど。当時はどんな芸術祭だったんですか？

佐藤…そうですね、昔は、とにかく乗り込んでいって…

松村…飲んでいましたよね、3日間ずっと。5時頃、帳が降りて来た頃からね。大刻屋から始まって、店がずつと並んでるじゃない。

鈴木…「かんだ川」もありますしね。

佐藤…僕の学生時代は、芸術祭最終日、夜が近づいてくると、みんなを店をぶちこわして回っていました。閉店だから、「解体の手間省いてやるよ！」みたいなこと言っただけ、パーッと店をぶち壊して！

松村…学生と教員とが一体になる一瞬ですよ。

東…あ、それ先生方も一緒にやってたんですね？

松村…うん、一緒にやってたね(笑)

東…鈴木先生が赴任された頃は、今のよう感じでした？

鈴木…そうですね。今のよう…でも独特だと感じましたね。レトロというか…。独特な、昭和初期のような

奏楽堂は、 学長が建てた!?

松村…今言ったようなね、豪快な時代から変遷があつて。20年、30年、40年を経て50年ですよ。やっぱりこれだけ続いて来たっていうのはすごいことだよな。

鈴木…そうですね。時間はお金では絶対買えないものですよ。

松村…買えない買えない。僕が学生ころは、千円札一枚あれば、長久手から栄のデパートに行つて買い物して、星ヶ丘で寄り道して、それでバス

1973 S48



芸術資料館 竣工。

1972 S47



奏楽堂に、西ドイツ、ヨハネス・クライス社製パイプオルガン設置。第2代学長 小塚新一郎就任

1970 S45

大学院(修士課程)開設。美術研究科[絵画専攻、彫刻専攻、デザイン専攻]、音楽研究科[作曲専攻、声楽専攻、器楽専攻(ピアノコース・弦楽器コース)]を設置。

1969 S44



奏楽堂 竣工

1966 S41.4



愛知県立芸術大学開学。美術学部美術科[絵画専攻、彫刻専攻、デザイン専攻]、音楽学部音楽科[作曲専攻、声楽専攻、器楽専攻(ピアノコース・弦楽器コース)]を設置。初代学長 上野直昭就任。

1966
2016
愛知県立芸術大学
沿革



鈴木 謙一郎 すずき けんいちろう
(音楽学部器楽専攻ピアノコース准教授)
桐朋学園大学音楽学部ピアノ科を首席で卒業。1999年フランス・トゥールーズ音楽院特別1等賞修了。演奏家として、国内外での活躍の後、2010年より音楽学部准教授に就任。



佐藤 直樹 さとう なおき
(美術学部デザイン専攻准教授)
1987年愛知県立芸術大学第22期生として入学。1991年美術学部デザイン専攻卒業、1993年同大学院美術研究科修士課程を修了。企業に就職した後、本学助手を経て、現在、准教授。専門は視覚伝達デザイン。

乗って帰ってきて、おつりもあった。
佐藤…当時、地下鉄は星ヶ丘までとお聞きしています。藤が丘駅は無かったので、駅ができるまでは、星ヶ丘からバスだったとか。
東…や、それを考えると本当に、「直指天」じゃないですけど、俗世間から離れたところにあるという…
松村…そう。僕の受験のころは、名古屋駅の名鉄バスセンターからバスで1時間ちょっとかかってましたかね。まだグリーンロードはなくて、旧街道をずっと走って、瓦スレスレの道をめくりながら走るといった時代でした。「社のあたりはまだ道が無かったんで、星ヶ丘からずっと南に行ったら、ここは、ここに連れて行かれるんだろう」と(笑)今はもう、リコモなんてのも通ってるでしょ！とはいえ、まだまだ中心地からだ」と「小旅行」だね。
鈴木…そうですね。でも僕はそう感じる以上に、(リコモ)芸大通駅から上がっていくときに感動してしまいました。「坂を上りきった先にはこんな素晴らしい環境があるんだ！」って、いたく感動したことを覚えています。だから僕は辺鄙だとか、思わなかったですね。

東…坂を抜けると、パッと緑の二面ですもんね。
鈴木…そう、また足を踏み入れると、こんなに広い敷地が広がっています。佐藤…あれ、いい感じにまた、ずーっと坂道が続いていて、丘の上に、ほーっとと学舎が見えてくるんですね。
松村…出来た当初はね、まだ全部の施設が建ってなかったですね。音楽堂、これ、僕が建てたんですね。
鈴木…え!?!
東…ふふ、鈴木先生すごいキョトンとした顔されてますが…(笑)
佐藤…アルバイトで、レングラ運んだんですよ(笑)
鈴木…ああ。なるほど！そうだったんですか！(驚きの表情)
松村…当時のアルバイトって肉体的労働くらいしかなくて。音楽堂の形は大体できているところに、募集があったんですよ。土方ですけどね。
——学生に伝えたいのは、「覚悟を持って」。
松村…学問や追究、というのを言出すとね、世の中、みんな努力の塊ですよ。普通の努力だけだと、その人の

卒の中で終わってしまう。でも、血反吐が出るような努力をしたとき、一瞬ね、自分の限界を超えるときがあるんですよ。そういうことの繰り返し。
今の学生も、教員として残ったかつての学生も、資質的にはそんなに変わらなと思う。ただ、僕なんかの学生の頃と、今の学生さんと、何が違うかつつたらね、覚悟みたいなものかもね。
鈴木…もって覚悟を持って、と。
松村…覚悟って言うとなんとなく大げさだけでもね。みんな、リスクを抱えてやる世界なんですよ。
佐藤…うん、そうですね。僕も一年生に言うんです。「芸術で食っていくという覚悟を持ってくれ」って。趣味程度に絵を描くんであれば、それはもう趣味でいいんです。ここ(愛知芸大)にいるっていうことは、「芸術で食っていく覚悟」を持つ資格がある。あるからにはね、芸術大学に入れなかった人たちの思いも背負って、君たちがデザイン界を引っ張っていくくらいの覚悟があつてほしいんです。
東…先生の熱い思いが胸に響きますね。図らずも、私の胸にも響いちゃいました。
鈴木…ばく、すごく感動する受験生との出会いがあつて。愛知芸大になんとしてでも行きたい、と。親御さんも来られてたんで、「お父さん、男は食っていくの、大変ですよ。」と、伝えたいです。勉強もできるっていうから「それなら医学部行った方が良いでしょう」なんて、でも、そのとき本人が言うのが「僕は、乞食してでも良いからピアノを弾いていたいんだ」って。
松村…良い覚悟だ。

鈴木…そこまで思っているんだから、僕も「最大限の助力をいたします」とね。
——50周年記念事業は、愛知芸大での「出会い」の集大成
松村…僕は昔「出会い」っていうテーマ、モチーフで個展をやったことがあつてね。いろんな出会いがあつて続いたことだつてのが、僕の一番大きなテーマになりました。人の出会いって、やっぱり大きいですよ。僕の場合は、やっぱり2人の年寄りとの出会いかな。
鈴木…「2人の年寄り」とは？
松村…ひとりね、浪人してふてくされて京都の植物園で寝転んだ時に出会った人です。もう、世の中真つ暗な気分です。ずっとふて寝してたら、目の前でイーゼル立ててね、おじいちゃん絵を描き始めた。ずーっと四六時中、書き終わるまで、おしっこも我慢して、見てたの。そしたら夕方になって、ふと気がついたおじいちゃんに「君は絵が好きなのかい」って言われて。実は浪人して、デザイン科を2回も受けて落ちこちて、ふてくされてんですって自己紹介したら、「じゃあ、明日から僕の鞆持ちでいてごないか。」って言うのね。その出会いがあつて、京都の町中、いろんなところをスケッチしてついて回つて。あつという間に水彩を覚えて、水彩展に出品したら入選したりしてね。
東…へえ、不思議な出会いから…
松村…不思議な出会いですよ。ずいぶんいろんなテクニクを教えてくださいましたけどね。いや、20年やってきた、この集大成ですよ。他の大学には絶対真似できない、本当にすごい…。
松村…楽しみですすよ。
鈴木…普通は、演出家が「こういうのやりたい」「作ってくれ」って言って、作るんですよ。
佐藤…そう、ですが、今回は違うんです。我々が作って、演出家の先生に「これです！」ってお示しして。ただ、演出家の飯塚励生先生も、本当に頭の柔らかい素晴らしい方で、「とても面白い、ぜひやろう！」って言うってくださるので、いま、とてもいい感じで進めています。
東…愛知芸大のオペラを、20年共に作つてくださっている先生ですね。
佐藤…素晴らしい方ですよ。
松村…人柄の良い方だね。理解してくれる。
佐藤…ええ、本当に。一緒にやついて、すごく楽しいです。
東…音楽が歩み寄って作る舞台。こちらも是非、足をお運びいただきたいですね。最後に、松村学長、50周年記念事業に参加されるすべての方へ、一言だけですか？
松村…芸術もなんでも、続けることが大事だよ。大学に頼り切つて4年間終わるのではなく、卒業してからも根気よく継続してほしい。この記念事業は、これまで続いてきた50年の軌跡を存分に発揮する機会にしよう。それを礎に、初代学長上野直昭先生が刻んだ「直指天」のごとく、富士山のとっぺんを、そしてさらなる天を目指していくという理想を胸に、新しい創造を目指してください。

1995 H7

第6代学長 川上實就任

1994 H6

大学院オペラ(複合芸術プロジェクト)を開始。音楽学部作曲専攻に音楽学コースを設置。同大学院音楽研究科作曲専攻に音楽学コース、管打楽器専攻に管打楽器コースを設置。

1990 H2

愛知県立芸術大学管弦楽団創設

1989 H1

第5代学長 建島嘉門就任
美術学部デザイン・工芸科の学科増設。デザイン専攻が美術科から移行、陶磁専攻を設置。美術学部美術科絵画専攻を、日本画専攻・油画専攻に改組。音楽学部器楽専攻に管打楽器コースを設置。法隆寺模写記念館、新講義棟、窯場竣工



1983 S58

第4代学長 河野孝就任

小塚新一郎死去に伴い、学長職務代理に大下正明が就任。(S52.9)
第3代学長 豊岡益人就任(S52.12)



日本の音楽界に優秀な卒業生を送り出している

深町…愛知芸大の印象をお聞かせください。

大友…こんなに豊かな自然の中にあるキャンパスだということに驚きました。昔から愛知芸大と関わってきた先生方は何人か存じ上げておられて、とても素晴らしい教授陣が教えていらっしゃる学校だな、ということは認識していました。

深町…卒業生についてはどうでしょう。

大友…卒業生としては、服部(孝也)さんは今の日本のオーケストラの金管奏者としてはトップクラスの人ですし、京響の稲垣(路子)さん、おそろく関西のオーケストラとしては初の女性トランペット奏者だと思います。とても優秀な方ですね。ですから、

日本の音楽界にも優秀な卒業生を送り出している立派な学校だな、という認識は持っています。

音楽の世界の素晴らしさと厳しさ

大友…音楽学部は、美術も一縮かもしれないけれど、学校を卒業した後、安定した就職とか人生とか、そういったものが約束されることは極めて稀と思つていたほうが、いい職種です。から、大学のポジションとしては、そういう中で世界に羽ばたいていく人達に、やはり自立できる、力強い実力と人生観、そういったものをきちんと持つてもらう事に尽きるんじゃないかと思うんだけれど。

深町…そうですね、教授する事は音楽なんだけれど、それだけを即物的に教授するだけではなくて、それをい

創立50周年記念式典・祝祭管弦楽団公演 指揮者インタビュー

大友直人氏

創立50周年記念祝祭管弦楽団で指揮者を務める大友直人氏。

その大友氏と長年にわたり音楽家として交流を重ねる

本学音楽学部准教授 深町浩司氏(打楽器奏者)による

対談が2015年9月に東京都内で行われました。

穏やかな雰囲気の中で音楽、教育、そして記念演奏会に向けた

両氏の思いや期待が語られました。(取材・文 中村ゆかり)

大友…そうですね。

深町…僕は学生に対して社会に出たら、それは通用しないよとか、僕が経験した事は、うだつたけれど、君どう思う?とか、まあ経験上の話をしますね。押しつけは好きじゃないんだ

けれど、僕がやって来た事は、こうで、こういう指揮者という事をしてきた。君はその考えだと難しいかもしれない。っていうやりとりをして、その子が別にプロフシヨナルにならなくても、後々教員になったりして、教える立場になってみると解るっていうか。人間を育てるっていう事がいかに大事か。

大友…そうそう、やはり、その人間形成。生き方を考えたり、探つたり、自分自身で生きる力っていうか、エネルギーを持つこと、持ち続ける事。学生時代は、もしかしたら本当に自由自在にそういう時間を過ごす事ができる最後の時間なのかもしれない。深町…学生は、意欲はあるけれど、卒業して解る。僕もそうだったけれど、音大出ても何も成らないっていう。学生の頃に色々やっておけば良かったなっていう。あの時に先生が言つて下さっていた事は、こうだった。なんであの時解らなかつたんだろう。

大友…だから結局は、本場の第2線の現場っていうのは、どこの学校出てる変えれば、ここで教えていらつしやる先生、若い方も含めてだけれど、ここ30年近く日本の音楽界で色々なところで一緒に活動してきたっていう。みんな接点の場所はバラバラで、つながり方は違ふけれど、つながりは持つてる。で、この中の、ある先生方は、その一部が愛知芸大で場所集約されている。そういった意味で、見

大友直人 おおとも・なおと

桐朋学園大学を卒業。22歳で楽団推薦によりNHK交響楽団を指揮してデビュー。現在、群馬交響楽団音楽監督、東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団ミュージックアドバイザー。また、2004年から8年間にわたり、東京文化会館の初代音楽監督を務めた。第8回渡邊暁雄音楽基金音楽賞(2000年)、第7回齋藤秀雄メモリアル基金賞(2008年)を受賞。



とか誰に習つたなんて事は全然関係がなくて、そこでその人がどれくらい実力がある音楽家かって事だけなので、音楽の世界はそういう意味では非常にフェアな世界だね。水準が高い世界に行けば行くほどそういう事は関係がなくなってくる。人種も国籍も学歴もまったく関係がなくなってくる。音楽家であるという事は、目標はあくまで大学の卒業とか、試験をパスするってことではないって事。若いうちから、しっかりと貪欲にあらゆる事を吸収して、学校時代を有効に過ごしては、いって事ですね。はつきり言つて学校は何の保証もしてくれない(笑)。そこが音楽の世界のある意味では素晴らしさと厳しさですよ。

50周年記念演奏会ならではのエネルギーとパワー

深町…50周年記念演奏会を指揮される抱負みたいなものをお聞かせください。

大友…まず、プログラムがバラエティーに富んでいますね。

深町…コンチェルトを2つとりあげるというのは特別なものですよね。

大友…伊福部先生の曲も嬉しいです。伊福部先生は私の大変尊敬する作曲家の先生です。この曲を演奏するの、楽しみですよ。

深町…この曲を演奏されたことはありますか?

大友…以前、安倍圭子先生と共演したことがあります。それ以来です。ので、とても楽しみです。

深町…(リストを務める)大茂(絵里子)さんも、この曲実は大好きだったそう、大友さんの名前を出したら飛び上がって喜んでました。やつた(つて)笑。

大友…それは嬉しです。素晴らしい日本のトッププレイヤーであり、愛知芸大とゆかりのある先生方が数多く参加してくださると伺いましたから、この演奏会ならではのエネルギー、パワーが間違いなく出てくると思います。

“愛知芸大×大友直人”

深町…愛知芸大×大友直人っていう組み合わせは、音楽をよく知っていらつしやるファンの方にとっても、え?という物凄く意外性があると思うんですけど、それについてはどうですか。

大友…私にとってもとても新鮮です。から(笑)。でも、音楽、まあ世間もそうだけれど、5年10年で本当に変わつていくの。だから皆さんが思つて下さつてる程のインパクトについては、私の名前自体は無いと思つていただいた方が、安全、安全。だけど、見方を

的なムーブメント、そういうものが起きていくきっかけになったら素晴らしい会なんじゃないかな、そういう風に思います。

深町…我々も、同じ思いがあつて、50年は自動的にやつて来るもの、何もなくてもいいし、何かやつてもいい。でも、我々としては記念事業をやるうってことで、その一環として記念のオーケストラがあるんですけど、やつぱり、それがただ通過点として5月24日で終わらなくて、それをやったことによる成果、それを使つて飛躍していかなければならないっていう、地域に対しての責任はすごくあるんですよ。それが我々にとつてのモチベーションにもなるし、学生にとつてもそう。50周年をきっかけに、特別な年ですから、そういう年にしないでほしいと。コンサートは、トップ・バッターなんですよ。

大友…そうですね。

深町…開学記念式典を行ったのが5月24日だったので、だったらそこで記念式典をもつてきてオーケストラをやるうってことで、それでトップ・バッターになったんです。なので50周年事業の幕開けの大部分になります。

大友…責任重大で荷が重いですね(笑)。

深町…僕は、個人的に大友さんと長い付き合いで、いろんなところでもいろんな曲をやらせていただいて、でもこういう形で共演できるのは、夢にも思つていなくて。

大友…すごく嬉しいですよ。

深町…しかも教員なんてことになつて、自分が(笑)。不思議ですよ。

2001 H13

第7代学長 島田章三就任
美術学部美術科に芸術学専攻を設置。

2007 H19

第8代学長 磯見輝夫就任
愛知県立大学法人設立により、大学法人化。愛知県立大学と共に、2大学1法人の大学となる。大学院美術研究科の5専攻、音楽研究科の3専攻を廃止。それぞれ美術専攻、音楽専攻を設置する。

2009 H21

大学院(博士後期課程)を開設。

2013 H25

第9代学長 松村公嗣就任
音楽学部新校舎 竣工



2014 H26

文化財保存修復研究所 設立

2016 H28

創立50周年を迎える

創立50周年記念国際シンポジウム 「異文化へのまなざし」

2016年9月23日(金)～24日(土)
愛知県立芸術大学室内楽ホールおよび大演奏室A

音楽学コース・芸術学専攻の共同企画として、パリ＝ソルボンヌ大学、台南芸術大学、ミラノ大学、本学の研究者が一堂に会し、音楽・美術にかかわる研究発表およびレクチャー・コンサート等を行ないます。

「愛知県立芸術大学模写展～片岡球子が遺した古典模写事業とその後継者たち～」日本画専攻企画
2016年4月2日(土)～5月22日(日) 古川美術館

「ワイマール・フランツ・リスト音楽大学での国際交流事業」管打楽器コース企画
2016年5月26日(木)～6月6日(月)

「陶芸&陶磁器デザイン2016 –愛知県立芸術大学陶磁専攻卒業生・修了生選抜展–」陶磁専攻企画
2016年8月6日(土)～9月25日(日) 瀬戸市美術館

「Blue birds-森の向こう」彫刻専攻企画
2016年8月28日(日)～9月25日(日) 愛知県立芸術大学 彫刻専攻アトリエ

「INTERWOVEN～編み込まれた世代～」油画専攻企画
2016年9月14日(水)～25日(日) 名古屋市民ギャラリー矢田

「森がつなぐ創造の遺伝子」美術館連携企画展示
2016年11月～2017年2月予定 ヤマザキマザック美術館

「日本画が歩んだ50年」日本画専攻企画
2017年1月14日(土)～3月12日(日) 名都美術館

名古屋フィルハーモニー交響楽団創立50周年記念&愛知県立芸術大学創立50周年記念 スペシャル・ジョイント・コンサート
2017年2月18日(土) 愛知県芸術劇場 コンサートホール

「愛芸50基金」のお願い

I. 募金の目的

愛知県立芸術大学創立50周年記念事業の推進。
(記念事業の記録編集、広報、及び募金活動、顕彰等にかかる経費を含みます。)

II. 募金のご案内

目標金額 1億円
募集期間 平成26年10月1日～平成29年3月31日
受入口数 個人の方:1口 5千円、できれば2口以上のご協力をお願いいたします。

法人の方:1口の金額は特に定めておりません。

III. お手続き方法

1.お申込み
創立50周年記念公式ホームページよりお申込みいただくか、愛芸50基金事務局へ申込用紙をご請求の上、郵送又はFAXにてお申し込みください。

2.振込先のご案内
お申込みをいただいた後、送付させていただく「お振込のご案内」などにより、お振込を御願いたします。

3.領収書の送付
ご入金のご確認ができ次第、領収書とお礼状をお送りいたします。
(寄附金の領収書は確定申告の際に必要となりますので、

大切に保管してください。)

IV. 税制上の優遇措置

ご寄附いただいた寄附金については、税制上の優遇措置が受けられます。

◇個人からの寄附の場合

・寄附金総額の2千円を超えた額が、その年の課税所得から控除されます。(年間所得の40%まで)

・控除手続きは、確定申告で行っていただけます。寄附金の領収書を、寄附金控除の証明書としてご利用ください。

◇法人からの寄附の場合

・寄附金の全額を当該決算期の損金に算入することができます。

V. ご厚志への謝意

ご寄附いただきました皆様には、末永く本学の歴史に刻まさせていただきます。感謝の意を込めて以下のことを行わせていただきます。

◇ご芳名の掲載(寄附者のご芳名を本学ホームページ等に掲載させていただきます。)

◇寄附者の顕彰(一定額以上(募集期間中の累計で、個人10万円以上、法人30万円以上)のご寄附をいただいた方に、感謝状贈呈及びご芳名の銘板を学内に掲示さ

せていただきます。)

◇大学情報のご案内(本学の広報誌の送付、及び各種の行事・イベントのご案内をさせていただきます。)

VI. 個人情報について

寄附金申込みの際にご提供いただいた個人情報は、寄附申込者の管理と礼状・領収書・各種案内等の送付のみに利用し、ご本人の同意を得ずに、個人情報を第三者に提供することはありません。

VII. その他

募金の進捗状況、支出事業とその金額については、本学ホームページ上で定期的に報告いたします。

【連絡先(送付先)】

愛知県立芸術大学 芸大総務課
愛芸50基金事務局
〒480-1194 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114
Tel: 0561-76-2492 Fax: 0561-62-2720
Mail: aigeiweb@mail.aichi-fam-u.ac.jp
URL: http://aigei50th.aichi-fam-u.ac.jp/

創立50周年記念事業紹介

一直指天 芸術は森からはじまる

創立以来、丘陵地の自然豊かな森に囲まれて美術・音楽の才能ある芸術家たちが育っていきました。講義棟に刻まれた直指天の志をもって、これからも未来に向かってまいります。

記念事業

創立50周年記念式典・祝祭管弦楽団公演

2016年5月24日(火)
愛知県芸術劇場 コンサートホール

本学は、1966年(昭和41年)の4月1日に開学し、同年5月24日に開学記念式を挙行了しました。そしてこれを記念し、50年前と同じ5月24日に、創立50周年記念式典・祝祭管弦楽団公演を開催します。祝祭管弦楽団は、本学教員、元教員、国内外で活躍する卒業生が集結し編成される、一夜限りの「ドリームオーケストラ」です。指揮者に大友直人氏、ソリストに本学ピアノコース客員教授:エフゲニー・ザラフィアンツ氏、本学卒業生で世界的マリンバ奏者:大茂絵里子氏を迎え、愛知県立芸術大学の高い教育成果と音楽的実力を大きくアピールします。また、ロビーでは映像インスタレーションを行います。

創立50周年記念オペラ公演《ラ・ボエーム》

2016年9月25日(日)
愛知県芸術劇場 大ホール

本学では20年間、毎年オペラ公演を開催し、好評を得ておりますが、音楽と舞台美術装置の両方を一つの組織が手がけているのは本学のみです。今回は音楽学部・美術学部が一体となり演出・音楽・舞台美術装置など全てに最高の力を結集しオペラに取り組みます。特にオペラ公演の集大成として、長年の念願であった美術家の発想による舞台美術装置にご注目下さい。キャストには国内外で活躍する卒業生と教員が、オーケストラには在學生と教員が丸となり、たっぷりお楽しみいただける創立50周年記念に相応しい華やかな舞台を創り上げます。

直指天(じきしてん)

禅語の「直指人心」に由来し、周囲を緑に囲まれたキャンパス内で、常に高みを目指すことを忘れずに芸術活動に取り組んでほしい、という願いを込めて、初代学長上野直昭が残した言葉。



愛芸50 記念事業

創立50周年記念展示「芸術は森からはじまる」

2016年9月3日(土)～9月24日(土)
愛知県立芸術大学構内

展示では芸術資料館、旧音楽学部棟、旧公舎などでの展示や本学構内、野外での自然を活用した環境インスタレーション展示やサウンドイベント等をおこないます。出品いただく作家として、戸谷成雄、奈良美智、岡田修二、小林孝亘、小林耕平、渡辺豪、他、本学卒業生を中心に国内外で活躍している多数の作家たちにお願いたします。



※イメージ写真

指揮／佐藤 正浩
演出／飯塚 励生
舞台美術／本学美術学部
ミミ／吉田 珠代
ロドルフォ／水野 秀樹
ムゼッタ／辻井 亜季穂
マルチェロ／末吉 利行
ショナール／能勢 健司
コッリーネ／林 隆史
ベノア、アルチンドロ／初鹿野 剛
合唱／愛知県立芸術大学合唱団
児童合唱／豊田市少年少女合唱団
管弦楽／愛知県立芸術大学管弦楽団



message

新任教員紹介



油画専攻 講師
岩間賢 いわまけん

本年度四月に山本富章教授の後任として、油画専攻の講師に就任しました。担当分野は絵画表現・現代美術であり、博士前期課程では「絵画からはじまること」「物語性芸術と統合性芸術の創作と研究」を開講しています。

この地は、私にとり新天地となります。学生時代は上野の杜で見識を深め、東京藝術大学で博士号を取得したのち、文化庁在外研修員として中国で長期に渡り、少数民族の自然共生調査や都市における持続的環境再生についての研究をしてきました。

帰国後は国内外の国際芸

術祭やアートプロジェクトに関わり、今から地続きの10年後の未来を多視点な角度から捉え、美術も、デザインも、建築も、音楽も、ダンスも、農学も、社会学も、生命研究も、分野や世代を超えて共振する場をつくり、新しい世界観・知を創生することを目指した活動を展開しています。

諸先輩諸先生の偉大な功績を受け継ぎ、本校の発展と充実のために、専心努力する所存です。



音楽専攻 准教授
川島幸子 かわしまゆきこ

二〇一五年度より音楽学部音楽専攻に着任いたしました川島幸子です。東京音楽大学ピアノ科卒業後、ピアノから音楽に転向し26歳で渡独、ドイツ国立ワイマル音楽大学で音楽を学び、ドイツ国家演奏家資格を取得、卒業後ドイツで演奏家ヴィザを取得し、ベルリンを拠点にドイツヨーロッパでピアノ歌手として演奏活動をし、二〇二一年に約14年に及ぶドイツでの生活にピリオドを打ち、日本に完全帰国しました。

とを生かして、これからの若い才能ある学生たちに伝え教えることが出来れば、この上ない喜びです。

音楽とは音を楽しむと書きますが、楽しむのは音楽を聴いているお客様であつて、演奏家ではありません。音楽を演奏するということは、悩み苦しむ、日々の練習と絶え間ない努力の連続です。音楽だけに没頭できるこの大学生活が有意義なものになるよう、また何かを掴んでほしいと切に願います。ともに頑張りましょう！

これまでのドイツヨーロッパでの演奏活動や、ドイツの音楽大学の全ての課程で学んだこ



デザイン専攻 准教授
本田敬 ほんだ たかし

二〇一五年四月より、母校であるこの大学に24年ぶりに戻ってきました。いたる所で懐かしさを感じながらも、学ぶ側の人間ではない事の不思議さも感じています。受験生の時に通っていた美術予備校講師の多くが愛知芸大生だったこともあり、受験前から自由奔放な校風に「憧れ」、運良く入学してからは、

今まで会ったことのない不思議なおトナ達(たぶん教授)から、酒の呑み方と社会に出る前の背伸びを学び、少しだけ芸大生の「誇り」を持たせてもらいました。社会に出て、酒の呑み方は少し役に立ったものの、肝心の仕事では自分の非力さに強く「焦り」を感じ、それでもなお好きこそ物の上手なれを抛り所に、広

く深いデザインの森を、家族や仲間を支えられながらさまよってきました。そして、どこかに到達したのではなく、まだそのさまよいは続くのですが、これからは、また違った学びを自分に課して、「驕り」に気をつけ、後進とともにじっくり森の中を進みたいと思います。



陶磁専攻 准教授
田上知之介 たがみとものすけ

一九九九年に本学陶磁専攻卒業後、製陶会社・デザイン室勤務、本学非常勤講師(二〇〇〇～二〇〇三年)、筑波大学大学院(プロダクトデザイン領域修了)、明星大学造形芸術学部助教、准教授(二〇〇九～二〇一五年)を経

て、本年度四月よりデザイン・工芸科陶磁専攻准教授に着任いたしました。陶磁領域の中でも主に、陶磁器デザインを担当しています。

12年振りに通う愛知芸大のキャンパスは、新緑の光に輝き、風がストレスなく吹き抜けています。陶磁棟は、中庭から心地良い小鳥のさえずりで二日が始まります。在学当時は、熊本の田舎から出てきたせいか、この環境の素晴らしさに気付きませんでした。

本学では、変わる必要のない物事は大切に受け継ぎながら、新しい風を送り込みたいと考えています。そして、日本有数の陶磁器産地に立地しているからこそ可能な、実践的で創造的な教育・研究活動を積極的に展開していきます。何卒よろしくお願い申し上げます。



ピアノコース 室員教授
エラゲニー・ザラフィアンツ

学生が自分自身で作品の解釈ができる力を養う教育をすること。それが私の指すところ。解釈の仕方、また様々な考え方に禁じられるべきものは存在しません

大切。他者の意見に追従するのではなく、自分自身で考え、論理的な作品の分析が可能となれば、必然的に個性の発展へとつながります。

また、私から学生の皆さんにお伝えしたいのは、音楽の源は人間の声である、ということ。声はしなやかな線、滑らかな流れを持っていきます。楽器を歌わせることがで

きるようになれば多少の技術的問題は自ずと解決されます。身体中を使って演奏をする次元へと移っていきます。また、無限の美しさ、無数の色を持つタッチによる音作りや、音楽的時間を感じつつ、自分自身の理想とするところを深く追い求め、表現していくことも大切であると考え

ます。

芸術・音楽は生き物であり、常に変化し発展し続けているものです。百年前と現在では同じ曲でも違うものなのです。生き物である以上、発展成長し、新しい意味を生み出していかなければなりません。さらに深く探っていくことに終わりはありません。それが止まるなら作品は死を迎えます。新しい意味を作り続けること。それが芸術なのです。



管打楽器コース 准教授
橋本岳人 はしもと たけひと

名古屋フィルハーモニー交響楽団入団を機に、縁もゆかりもなかったこの地に根を下ろし、早くも15年以上の歳月が流れました。今や愛知は、私のもう一つの故郷となっております。本学着任直前の

二〇一五年三月に、前職場の名古屋フィルのメンバーとして、それまで共演の機会が無かった愛知芸大の学生の皆さんと同じ舞台に立てた事は、何という偶然なのでしょう！私のプロオーケストラ人生

は学生時代から始まり、20年以上にもなります。その間、世界的な指揮者や、ソリストの方々と共に音楽を創り上げて来た事は、私にとって正に宝です。

これまでの経験を活かして、学生の皆さんの能力を最大限に引き出すべく日々研究し、いつまでも妥協無く、素晴らしい音楽を探索する心を、学生と共有していきたいと思

自分から開いていくこと

活躍する学生コメント(音楽)

博士後期3年(音楽学)
七條 めぐみ しちじょう・めぐみ



私は2013年秋から、愛知県立芸術大学とパリ=ソルボンヌ大学に同時に在籍し、博士論文を執筆する「コチュテル」という制度を利用し、フランスで留学期間を送っています。研究領域はバロック音楽史、現在は特に、1700年頃の阿姆斯特ダムにおける楽譜出版について研究しています。2年半に及ぶ留学で学んだ一番大切なことは、「自ら心を開いていくこと」だと思います。

私はこれまで、物事の選択に悩んだとき、人の助けを借りることが少し苦手でした。このように言うと、まるで一人で何事も決めてきたかのようなのですが、その真逆で、たまたま進むべき道を示してくれる先輩や師に恵まれ、その環境を当たり前のように捉えていたのだと思います。しかし、フランスに来てみると、自分が動かなければ何も始まりません。言葉のハンデがあろうが、見知らぬ大先生にアポを取るのも、社会保険が適用されるよう手配するのも自分から。私はこの原則に気付くのに1年、行動を変えるのにさらに1年かかりました。

転機となったのは、2015年5月に行った学会発表。フランス語での発表は初めてではなかったものの、ぎりぎりまで話がまとまらず、とても困っていました。そこで、ソルボンヌの友人に助けを求め、状況を説明し、不明瞭な点は質問してもらうようにすると、それだけで問題が整理され、発表の内容を絞ることができました。結果、今後の課題までもが見えてきて、なぜ今まで身近な人に心を開いて

相談しなかったのだろうと悔やみました。

このようなコミュニケーションの作法は、日々の寮生活においても重要だと感じています。寮には様々な国の、多様な専門分野の人たちが集まっています。哲学、法学、情報工学、ダンス、服飾、フラワーアレンジメント等々…。私とは全く違う世界を

生きている人たちと共に暮らすには、まず自分が何者かを明かし、相手の話に耳を傾けるしかありません。同様に、研究を行う上でも、資料や文献と向き合うことももちろん大事ですが、折に触れて他者と意見を交換すること、そして不完全でも自己開示していくことが、前に進むきっかけになるのだと学びました。



①ソルボンヌ大学・クリニャンクールキャンパス。音楽学コースの授業はここで行われる。
②古楽研究会での発表(2015年5月28日)。
③④研究の舞台、阿姆斯特ダムは運河の街。
⑤寮の日本食パーティーでは企画・運営を務めた(2015年6月13日)。

自身の制作について

活躍する学生コメント(美術)

博士後期1年(日本画)
川島 優 かわしま・ゆう



現代において絵をかくことは、現代に生きる自己を表現することだと考えています。

現代社会への行き場のなさには、出口のない部屋に閉じ込められたような虚しさを感じることがあります。そして、どこからくるのかよくわからない抑圧に対する、怒りや悲しみも覚えることもあります。しかし、現代を生きるためには前に進まなければなりません。掴み所のない現代社会を前に絶望するだけではなく、不安そのものに向き合っていくことが必要なのです。自身の絵画が、現代に生きる自分自身を見ようとしていることから、不安をかくことは現代を生きることだと私は言いたいのです。



①Deja vu 麻紙、墨、岩絵具、銀箔
②Toxic 麻紙、墨、岩絵具、銀箔
③Inside 麻紙、墨、岩絵具、銀箔
④Adverse effect 麻紙、墨、岩絵具、銀箔
⑤Domain 麻紙、墨、岩絵具、銀箔
⑥TOXIC 麻紙、墨、岩絵具、銀箔

専門はフランス現象学ですが、ドイツ哲学からも多くを学んでいます。30前後によく研究の方向を定め、「創造の根源としての創造しないもの」という拙論を発表してからは、自分の道に迷うこともなくなりました。30代半ばには3年間フランスに留学し、最初の2年はポルドー、最後の1年はパリ(ソルボンヌ)に滞在して、メーヌ・ドピランという哲学者について、フランス語で博士論文を書きました——ちなみにこれはのちに翻訳

し、二〇〇一年に『メーヌ・ドピラン——受動性の経験の現象学』という書名で出版しています。帰国後、これからの人生をどう生きるかについて省察し、ライフワークとして「自然の現象学」を構想して、体系というわけではありませんが、どうしても考えておきたい幾つかの問題に関し、貫いた論理に基づく諸著作を刊行してゆく計画を立てました。当初は15年計画くらいのもりが、4半世紀近く経った今でも、まだ完結していません。それでも二〇〇四年から二〇一五年にかけて、『自然の現象学——時間空間の論理』、『歴史と文化の根底へ——『自然の現象学』第二編』、『行為と無為——『自然の現象学』第三編』、『身体の生成——『自然の現象学』第四編』の4冊を上梓し、今は最後の課題たる『他者問題』に取り組んでいます。

数年後に『他性と場所——『自然の現象学』第五編』を公刊したら、これまでの諸考察を総括するような著書を出し、そのうえで定年退官後には、今まで自分が築いてきたものを「破壊」するような仕事を敢行したいと考えています。構築した者にしか破壊する資格はないし、破壊とは何であるかも分からない——学問や芸術に携わる者たちにも、目先の得失に二喜一憂するのではなく、大きな志をもって生きていく欲しいですね。

学生時代、最初は美学美術史学科で美学を学んでいましたが、途中から哲学科に転向しました。本学に赴任した時も、本来は哲学の専任教員だったのですが、美学の専門家がなかったので、芸術学専攻の創設時から、美学担当教員として協力して参りました。今でも自己紹介する時、「哲学専門・美学担当」というような言い方をしています。プロの矜持を失うと、人間もうおしまいですからね。

専門はフランス現象学ですが、ドイツ哲学からも多くを学んでいます。30前後によく研究の方向を定め、「創造の根源としての創造しないもの」という拙論を発表してからは、自分の道に迷うこともなくなりました。30代半ばには3年間フランスに留学し、最初の2年はポルドー、最後の1年はパリ(ソルボンヌ)に滞在して、メーヌ・ドピランという哲学者について、フランス語で博士論文を書きました——ちなみにこれはのちに翻訳



美術学部芸術学専攻 教授
中敬夫
なか けいお

創造しない自然に魅せられて



写真左より *La vie et les vivants. (Re-)lire Michel Henry, 2013 (共著)*、『ベルクソン読本』2006年(共著)、『西洋哲学史(近代編) 科学の形成と近代思想の展開』1995年(共著)、ディティエ・フランク『ハイデッガーとキリスト教——黙せる対決』2007年(単訳)、『メーヌ・ドピラン——受動性の経験の現象学』2001年(単著)、『歴史と文化の根底へ——『自然の現象学』第二編』2008年(単著)、ヘルマン・シュミット『身体と感情の現象学』1986年(共訳)、『自然の現象学——時間・空間の論理』2004年(単著)、ミシェル・アンリ『精神分析の系譜——失われた始源』1993年(共訳)、ミシェル・アンリ『実質的現象学——時間・方法・他者』2000年(共訳)、ミシェル・アンリ『受肉——肉の哲学』2007年(単訳)、ミシェル・アンリ『身体と現象学——ピラン存在論についての試論』2000年(単訳)、『行為と無為——『自然の現象学』第三編』2011年(単著)、『身体の生成——『自然の現象学』第四編』2015年(単著)、*Michel Henry, 2009年(共著)*

専攻	氏名	学年	名称	受賞名		
美術学部 日本画	飯田穂野香	学部 4年	再興100回院展	入選		
	飯田穂野香	学部 4年	はるひ絵画トリエンナーレ	佳作		
	飯田穂野香	学部 4年	北の大地ビエンナーレ	誌上入選		
	玉井伸弥	学部 4年	再興100回院展	入選		
	玉井伸弥	学部 4年	70回春の院展	入選		
	玉井伸弥	学部 4年	第29回三菱商事アートゲートプログラム	出品		
	坂場加奈子	博前 1年	再興100回院展	入選		
	坂場加奈子	博前 1年	半田市民美術展	教育委員会賞		
	白石綾奈	博前 1年	名都美術館「はやぶさの会」	出品		
	金子洋平	博前 1年	名都美術館「はやぶさの会」	出品		
	安田渉	博前 1年	第十回熊谷守一大賞展	入選		
	安田渉	博前 1年	名都美術館「はやぶさの会」	出品		
	鈴木広太	博前 2年	再興100回院展	入選		
	鈴木広太	博前 2年	第70回春の院展	入選		
	鈴木広太	博前 2年	名都美術館「はやぶさの会」	出品		
油画	鈴木靖代	博前 2年	再興100回院展	入選		
	鈴木靖代	博前 2年	第70回春の院展	入選		
	鈴木靖代	博前 2年	名都美術館「はやぶさの会」	出品		
	川島優	博後 1年	再興100回院展	入選		
	川島優	博後 1年	第70回春の院展	入選		
	川島優	博後 1年	第6回日経日本画大賞展	出品		
	田中藍衣	博前 2年	第40回全国大学版画展	町田市立国際版画美術館収蔵賞		
	箱山朋実	博前 2年	第40回全国大学版画展	町田市立国際版画美術館収蔵賞		
	彫刻	須貝旭	博前 2年	第30回 ホルベイン・スカラシップ 奨学者		
		川角岳大	2015 卒業	アートアワードトーキョー丸の内2015	入選	
		玉山拓郎	2013 卒業	アートアワードトーキョー丸の内2015	審査員賞=後藤繁雄賞	
		デザイン	近藤さくら	博前 2年	常滑イオンモールまねき猫 デザインコンペティション	入選
			三上俊希	博前 2年	トーキョーミッドタウンアワード2015	優秀賞
			田島大介	2015 卒業	トーキョーミッドタウンアワード2015	グランプリ
		陶磁	葉栗里	2013 修了	2015年 TOKYO DESIGN WEEK 「ASIA AWARDS」アート部門	セミグランプリ
竹内さつき			学部 1年	OAC学生会告	OACブロンズ	
中山泰徳			学部 1年	クリエイティブアワード2015	「宣伝会議賞」	
松本誠			学部 2年	ココヨデザインアワード2015	佳作	
土津田勇気・長井博之介・杉浦卓介			学部 2年	第9回人と自然の共生国際フォーラム	出品	
管打楽器			汲田楓	学部 3年	日本弁理士会会長賞	
			宮岡瑞樹	学部 4年	第19回文化庁メディア芸術祭 エンターテイメント部門	審査員推薦作品
			野崎あずさ・小木曾里恵・増成花月	学部 3年	AXISギャラリー金の卵展	テーマ部門出品
			弦	中山泰徳	博前 1年	
	吉田菜央			学部 4年	第72回一宮市美術展	美術展賞
	松本理沙			学部 4年	「国際瀧富士美術賞」第36期奨学生	入選
	上田渚			博前 1年	第44回長三賞常滑陶芸展	入選
	上田渚			博前 1年	第10回CBC羽け二十歳の記憶展	審査員賞
	上田渚			博前 1年	第55回日本クラフト展	入選
	村山緑			博前 1年	第46回東海伝統工芸展	入選
	柄澤あかり	博前 2年		第46回東海伝統工芸展	入選	
	柄澤あかり	博前 2年		第3回陶美展	入選	
	柄澤あかり	博前 2年		第6回菊池ビエンナーレ	入選	
	サキャンボン	博後 3年		第44回長三賞常滑陶芸展	入選	
	パーニット・ナティニー	博後 3年		ベンジャロン陶磁器コンペティション(タイ)	コンテンポラリー部門 銅賞	
サキャンボン	博後 3年	第55回日本クラフト展		入選		
パーニット・ナティニー	2013 卒業	「陶芸の森デザインコンペ やきものによる動物のインテリア」展		金賞		
管打楽器	酒井里奈	2014 修了		第46回東海伝統工芸展賞	入選	
	明石朋実	2014 修了	第46回東海伝統工芸展	入選		
	明石朋実	2014 修了	第70回新匠工芸会伊砂利彦賞	入賞		
	兪期天	2014 修了	第46回東海伝統工芸展	入選		
	兪期天	2014 修了	第23回日本陶芸展	入選		
	兪期天	2014 修了	第3回陶美展	入選		
	屋我優人	2013 修了	第46回東海伝統工芸展	入選		
	屋我優人	2013 修了	第6回菊池ビエンナーレ	入選		
	森本静花	2013 修了	第46回東海伝統工芸展	入選		
	森本静花	2013 修了	第29回四日市萬古陶磁器コンペ2015	審査員特別賞		
	久野笑加	2011 修了	第46回東海伝統工芸展	入選		
	熊澤文太	2011 修了	第46回東海伝統工芸展	入選		
	熊澤文太	2011 修了	第70回新匠工芸会努力賞	入選		
	イ・キョンミン	2010 修了	Westwaldpreis(ドイツ)	ヴェスターヴァルト賞		
	陶磁	小池夏美	2007 修了	第44回長三賞常滑陶芸展	奨励賞	
明石拓馬		2001 修了	第3回陶美展	札幌インテリアアクト賞		

専攻	氏名	学年	名称	受賞名
音楽学部 専攻コース 作曲	成本理香	2014 修了	2015年アイアン・コンポーザー・コンクール(アメリカ)	第3位
	成本理香	2014 修了	平成27年度大桑文化奨励賞受賞	
音楽学	坂田直樹	2007 卒業	入野賞	
	七條めぐみ	博後 3年	ソルボンヌ大学における第12回古楽シンポジウム発表	
	加藤希央	2015 修了	文化芸術振興に関する長久手市長賞	
声楽	加藤希央	2015 修了	第13回日本修士論文賞	佳作
	上條あとり	学部 2年	第21回みえ音楽コンクール	第3位
	森島史佳子	学部 2年	第2回豊田声楽コンクール	銀賞
	藤田果玲	学部 4年	第7回東京国際声楽コンクール	奨励賞
	藤田果玲	学部 4年	第16回大阪国際音楽コンクール	エスポアール賞
	藤田果玲	学部 4年	声楽部門Age-U歌曲コース	
	藤原麻由子	学部 4年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位
	川瀬千音	博前 1年	第69回全日本学生音楽コンクール	第1位
	杉浦孝治	博前 1年	第69回全日本学生音楽コンクール	第3位
	宇佐見朋子	博前 2年	第69回全日本学生音楽コンクール	入選
	水野優	博前 2年	新国立劇場オペラ研修所入所試験合格	
	井口侑奏	博前 2年	日本演奏連盟新進演奏家育成プロジェクト「オーケストラ・シリーズ」オーディション合格	
	小澤美咲紀	2015年卒業	第86回横浜新人演奏会	横浜音楽協会賞
	小澤美咲紀	2015年卒業	第69回全日本学生音楽コンクール	入選
	高木彩也子	2015年修了	東京大会声楽部門大学の部	エスポアール賞
ピアノ	新宮雅美	2015年修了	第86回横浜新人演奏会	神奈川新聞社賞
	大梅慶子	2015年修了	第7回東京国際声楽コンクール	第5位
	奥村育子	2013年修了	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第1位
	伊藤優里	学部 1年	第9回横浜国際コンクール	大学の部 第3位
	大崎奈々・福田ゆり子	学部 3年	第31回愛知ピアノコンクール	金賞、中日新聞社賞、リリオ賞
弦	福田ゆり子	学部 4年	自由曲2台ピアノ部門	第1位、三重県知事賞
	松江咲恵子	学部 4年	第21回みえ音楽コンクール	第1位、三重県知事賞
	筒井恵美	学部 4年	ピアノ部門大学以上一般の部	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
管打楽器	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
管打楽器	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	管打楽器	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
管打楽器		高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	管打楽器	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
管打楽器		高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
	高桑まや	博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
	管打楽器	高桑まや	博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞
高桑まや		博前 1年	第7回岐阜国際音楽祭コンクール	第2位、岐阜市長賞
高桑まや		博前 1年	第1回なごや青少年ピアノコンクール	第1位、愛知県議会賞

interview

卒業生インタビュー

次の道、その先へ向かって

活躍する卒業生コメント(音楽)

アルテンブルク/ゲラ(独) 歌劇場専属歌手

辻井 亜季穂 つじい・あきほ



撮影 近藤直弥

大阪府立夕陽丘高等学校音楽科卒業。本学では大下久深子名誉教授の元で学び、大学院音楽研究科博士前期課程を首席修了。DAAD(ドイツ学術交流会)給費留学生として留学、ライプツィヒ音楽演劇大学オペラ科のマスターの学位を取得。Lortzing コンクール優勝、ザルツブルクモーツァルト国際コンクール、国際ハンスガボアベルヴェデーレ声楽コンクールファイナリスト。これまでに《ばらの騎士》(ゾフィー)、《ボエム》(ムゼッタ)、《マルタ》(レディーハリエット)、《リゴレット》(ジルダ)等を演じている。

(取材・文 本学非常勤講師 中村ゆかり)

学生時代から夢であったドイツへ渡り、渡欧後僅か3年で劇場専属歌手となった辻井亜季穂さん。学生時代から現在に至るまでについてお話を伺った。

——愛知芸大を志したきっかけは?

高校1年の時に、大下久深子先生(本学名誉教授)の公開講座を受講し、先生と同じ空気を吸えるだけでもいいから、とにかく愛知芸大を目指そうと決めました。

——大学時代の印象に残るエピソードは?

入った時は、声も小さく、音程も悪く、先生に迷惑をかけてばかりのどうしようもない学生だった。大学2年の時、忘れもしない1日が訪れたんです。腹式呼吸と、何ていうのか支えのバランス、というのがピタって来た日があって、人生で初めてオペラ歌手みたいな声が出たんです。それは大下先生の細かい指導と、先生の直感と私の直感とがピビッと来た日で、二人で凄く感動した事を覚えています。そこから歌いたいように歌えるように、そういう方向に進めるようになりました。

——DAAD(ドイツ学術交流会)の奨学金を得て2011年渡欧。ライプツィヒ音大オペラ科で学び、13年からはテューリンゲンのオペラ研修所に入られたのですね。

大学卒業が迫って、ありっけの研修所に応募しました。審査で300人から6人が選ばれました。研修は4つの劇場で小さな役を歌って回るという生活で、いろんな劇場で経験を積む時間でした。

——2014年には世界トップクラスの2つのコンクールでファイナリストに。

ファイナルに残ると思っていなくて、もうそこまで来たら入賞よりも印象を残す事だと。ファイナルでパミーナを歌いたくなかったのに、審査員に選ばれてしまって。凄く怖くて、膝も手もむちゃくちゃ震えた覚えがあります。それでいて、お客さんの反応が凄く良かった。手足を震わせて歌ったパミーナで大きな劇場からオファーの賞を貰えたのは、何より自信につながりました。

——現在ゲラ歌劇場で活躍されていますが、舞台上で学ぶ事は? 悪い意味ではなく、舞台上にいる同僚

を信用しすぎない事って大事だと思っています。例えば一人が入るタイミングを間違えた時、私がお客さんを頼りに勉強していたら共倒れするじゃないですか。5人のアンサンブルのうち、4人が共倒れしても、私一人が確かたったら、みんなまた帰って来れるんですよ、そこを軸にして。それができるのは、私が思うに、日本人の取柄だと思うんです。日本人は、きちっと準備して、人のせいにならないし、責任感が強い。あと恥をかかなくていいのも凄く大きいと思うんです。視野を広げて、今この人ピンチだと思って思ったら、助けてあげられる時は、助けて

あげる。演技の振りをして、後ろを向いて、メロディーを歌うタイミングと一緒に歌ってあげたり。ライブだとなら、臨機応変が必要だと学びます。

——今後の目標は?

もう少し大きなハウスに行っても発声的に余裕を持って歌えるようにステップアップしたいという点と、もっとレパートリーを増やして、次の道、そこに必要なものを今ここで働かせて頂いている間に、経験して、準備して。それが今自分が一番やるべき事でやりたい事ですね。



1 大下久深子本学名誉教授とライプツィヒにて
2 歌劇《ラ・ボエム》ムゼッタ役 撮影: Stephan Walzl
3 歌劇《リゴレット》ジルダ役 撮影: Sabina Sabovic
4 歌劇《ばらの騎士》ゾフィー役 撮影: Stephan Walzl

動物のかわいらしさを「木彫」で伝えたい

活躍する卒業生コメント(美術)

木彫 彫刻家

はしもとみお はしもと・みお



博士前期課程彫刻領域修了
(取材・文 本学非常勤講師 藤田千彩)

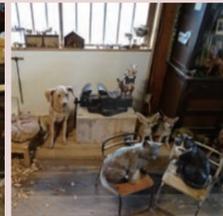
大学院を修了した後、はしもとみおさんは三重県いなべ市にアトリエを構え、毎日制作に励んでいます。



手の平サイズは一日で完成します



制作依頼はペットの動物が多い



アトリエに置かれた動物たち

——愛知芸大を目指した理由を教えてください。

小さいころから動物が好きで、獣医になろうと考えていました。しかし兵庫の実家で、阪神・淡路大震災を体験し、そのとき死んでいく動物たちを見て、「この命をどうめたい、形に残したい」と思い直しました。そこで、動物たちの姿を彫刻にして表すことができるのではないか、と東京の美術大学へ進学。最初のころは、実家で飼っていた猫を思い出そうに彫ったのですが、そのイメージになかなか近づけなかったという苦労もありました。でも毎日彫り続けていくうちに、大学院進学を考えるようになりました。愛知や東海地方には多くの木材があり、廉価で思ったものが手に入りやすい。その理由だけで、愛知芸大の大学院へ進学を決めました。

——在学してよかったこと、得たことは何ですか。

いまの現代美術は、コンセプトや個性に重きが置かれていますが、私がしている肖像彫刻というジャンルは、もっと本質的なところを求められます。愛知芸大の先生たちや先輩たちに恵まれたおかげで、作品の本質から素材、技法まで、幅広く教えていただくことができました。また、学部時代は美術だけの大学だったので、音楽学部の学生と知り合えたことは貴重でした。一人で作業をすることが当然の私たち美術に対し、音楽はみんなと共に行う芸術です。周囲の人たちに信用を置くことのように、その姿勢に学習することが多かったです。

——卒業されてから現在、どういった活動をなさっていますか。

制作を続けていくうちに、先生が紹介してくれたギャラリーで展示会を開くことになり

ました。それを見に来た方たちが、作品を気に入って、別の展示会に誘われたり、作品を買ってくださったり、という新しいつながりが生まれました。さらに次の展示会でも、同じようにいろいろとつながっていききました。知り合いの方が紹介してくださった方の家に何うと、既に私の作品が置かれていたということもときどきあります。今ではクラフト市、動物作家の展示会や音楽フェスの舞台美術といった場所で、年間約20本の展示

会やイベントで作品を発表しています。

——いろいろな活動をされているのですね。

全国各地での展示だけでなく、ほぼ毎週末には、ワークショップも開催しています。私の作品を気に入ってくださったお客様からの依頼で制作することも多いです。私は実際にその家へお邪魔します。私が

動物をたくさんスケッチしますし、現地で木を彫ることもあります。以前アラブ首長国連邦へ行き、ガゼルというシカのような動物を取材したときは、野生種のため安易に人間に近づかず、観察することさえ大変だったこともありました。私の仕事は、自分らしさを求めるよりも動物のかわいらしさを木彫で伝えること。ただそれだけですが、私はこの仕事を一生続けていきたいです。



1 出会った動物たち
2 黒柴 月くん
3 東京 もみじ市にて



3

日程・企画内容は未確定のものが多く、全てのイベントの最終日程は大学の公式サイト等でご確認ください。
創立50周年記念事業については、8、9頁もご覧ください。

1 演奏会

日程	名称	開催場所
H28年5月	創立50周年記念式典・祝祭管弦楽団公演	愛知県芸術劇場 コンサートホール
H28年6月	管弦楽団特別演奏会	あま市美和文化会館
H28年6月	ブラームス室内楽全曲演奏プロジェクト 第2回公演	電気文化会館 ザ・コンサートホール
H28年7月	管弦楽団特別演奏会	パティオ池鯉鮒
H28年8月	愛・知・絆チャリティーコンサート	宗次ホール
H28年9月	第49回作曲作品演奏会	室内楽ホール
H28年9月	創立50周年記念オペラ公演《ラ・ボエーム》	愛知県芸術劇場 大ホール
H28年10月	室内楽の楽しみ	長久手市文化の家 風のホール
H28年10月	第49回定期演奏会	愛知県芸術劇場 コンサートホール
H28年11月	ブラームス室内楽全曲演奏プロジェクト 第3回公演	電気文化会館 ザ・コンサートホール
H28年11月	第27回管弦楽団定期演奏会	愛知県芸術劇場 コンサートホール
H28年11月	第17回ウィンドオーケストラ定期演奏会	アートピアホール
H28年12月	オペラ公演(2公演)	長久手市文化の家
H29年1月	第11回弦楽合奏定期演奏会	三井住友海上しらかわホール
H29年2月	室内楽の夕べ	電気文化会館 ザ・コンサートホール
H29年3月	第48回卒業演奏会	愛知県芸術劇場 コンサートホール
H29年3月	大学院生コンサート	電気文化会館 ザ・コンサートホール

2 展覧会

日程	名称	開催場所
H28年5月	収蔵品展	芸術資料館
H28年6月	博士前期課程研究発表展 [油画・版画領域] (1,2年)	
H28年7月	油画専攻研究発表展 (学部4年)	
H28年7月	デザイン専攻作品展	
H28年9月	創立50周年記念展示「芸術は森からはじまる」	
H28年10月	WAVE作曲専攻	
H28年10月	教員展	
H28年11月	博士前期課程研究発表展 [彫刻領域]	
H28年11月	陶磁専攻作品展	
H28年12月	博士後期課程研究発表展 (1,2年)	
H29年1月	博士学位論文作品審査展 など	
H29年2月	卒業修了制作展、卒業修了優秀作品展	
H29年3月	博士学位論文作品展	
H28年4月～5月	春季展【特別陳列】若き作家たちの模写作品ー古典に学び、伝えるー	
H28年9月～11月	秋季展	
H29年3月	春季展	
H28年9月	エラード&ジョンストン展	栄サテライトギャラリー
H28年11月	干支展	
H28年11月～12月	研修生発表展	
H29年3月	卒業修了制作展	愛知芸術文化センター 芸術資料館

3 瀬戸内国際芸術祭・あいちトリエンナーレ2016

日程	名称	開催場所
H28年3月～11月	瀬戸内国際芸術祭	高松市女木島 など
H28年8月11日～10月23日	虹のキャラヴァンサライ あいちトリエンナーレ2016芸術大学連携プロジェクト	愛知芸術文化センター アートラボあいち など